

平成25年度(2013 年度) 第4回吹田市子ども・子育て支援審議会会議録(要旨)

開催日	平成26年3月25日(火)	開催時刻	午後6時30分～8時30分
場 所	吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館 4階多目的会議室		
出席者	泉会長、峯本副会長、井村委員、香川委員、粉川委員、山口委員、武内委員、植田委員、松下委員、長瀬委員、長谷川委員、渡邊委員		
欠席者	御前委員、田中委員、上農委員		
事務局	春藤部長、増山次長、藤本総括参事、熱田室長、岸参事、秋山参事、田辺所長、西村課長、山本参事、黒木参事、笹川参事、脇谷課長、杉原主幹、和泉主査、古田主査		
傍聴者	一般 7人		
案 件	1 ニーズ調査結果の概要について 2 教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」について 3 教育・保育提供区域の設定について 4 その他		
泉会長	ただいまから、第4回吹田市子ども・子育て支援審議会を開催します。傍聴希望の方は、いらっしゃいますか。		
事務局	本日、7人の方が傍聴を希望されています。全員の方に入らせていただいております。		
泉会長	どうぞ、入ってもらってください。 (傍聴希望者入場)		
泉会長	議事に入る前に本日の資料について、事務局からお願いします。		
事務局	(傍聴についての注意点、資料の確認)		
泉会長	それでは、議事に入ります。案件「1 ニーズ調査結果の概要について」事務局から説明をお願いします。		
事務局	(資料1を説明)		
泉会長	ニーズ調査の結果について、何かご意見やご質問はありませんか。		
委員	ニーズ調査を行うにあたり、6割程度の回収を見込んでいたと思いますが、48.6%という数字は少なく感じます。資料としては妥当なものでしょうか。		
事務局	希望として6割の回収を見込むと申し上げましたが、統計上今回の調査は、35%程度の回収率で十分有意だと言えるものです。以前に実施しました次世代育成支援行動計画の調査では45%～50%の回収率だったと記憶しています。		
委員	5ページの「6. 現在利用しているサービスについて」ですが、希望時間での不明が多く、ニーズのバラつきがあるからだと思うのですが、数字だけでは見えないところで具体的な回答やどのような認識を持っているのか、教えてください。		
事務局	不明のほとんどが無記入となっています。記入漏れということもあろうかとは思いますが、回答者が何時間という数字を定めることが難しく、記入できなかったのではないかと考えています。		
委員	この内容は、調査票のどの問いに対応していますか。		
事務局	就学前児童の調査票の間15-2、間15-3、就学児童の調査票の間13及び間14に対応しています。		
	委員のご意見にもありましたが、5ページの「不明」回答が多いことについて、現在幼稚園		

に通園している児童の保護者ではないかと思います。開始時間は決まっていますが、働いていないため終了時間が分からず「不明」と答えたのではないかと考えています。

委員

調査票の質問は他にもあったと思いますが、この概要には詳しいことがでていません。

事務局

「量の見込み」を推計するにあたり、該当する集計結果を報告させていただきました。ニーズ調査全体についての報告書は、改めて作成する予定です。

委員

7ページの「7. 定期的にご利用したいサービスについて」ですが、「6. 現在利用しているサービスについて」と比較すると、共同保育所や認可外の保育施設を現在利用しているが、あまり利用したくないと言えるのではないかと思います。現在、市内での認可外の保育施設はどのくらいありますか。

事務局

届出済の認可外保育施設は22か所です。そのうち、共同保育所は3か所です。

委員

子育て広場に携わっていますが、就学前の子どもを持つ母親から様々な悩みや思いを聞いています。12ページの「子育てに関して日常悩んでいること、あるいは気になることは何ですか」の「(2)ご自身に関すること」で「仕事や自分のやりたいことなどの自分の時間が十分取れないこと」や「子育てのストレスなどから子どもにきつくあたってしまう」などということを直接聞いています。解決策として、父親が休みのときに子どもと一緒に子育て広場を利用している方がいます。

13ページの「13. 市の要望」について最も多いのが、71.0%になる「小児救急など安心して子どもが医療機関を利用できる体制を整備する」です。吹田市民病院がJR岸辺駅前に移転するというので、この機会に医療保育の部屋を作って欲しい、との声もありました。これらの願いをぜひ実現して欲しいと思います。

泉会長

子育てについて、以前に比べて地域に仲間がいない、場所がないという状況だと思えます。公園もできていますが、空き地も少ないということで子どもが遊べない、親も仲間がいないということで環境が変わってきていると思います。子育て環境を見直して、吹田市としても整備をして欲しいと思います。

また、企業も働き方について、女性が社会に出たとしても男性と同じように働いてくださいということでは厳しいと思います。保育サービスとの兼ね合いがありますが、社会全体がもう一步進んで課題に取り組まなければならないと思います。

3ページの「3. 保護者の就労状況」について、就学前児童ではフルタイム×フルタイムが23.5%に対し、就学児童では17.0%に下がっています。また、父親(フルタイム)×母親(無業)が就学前児童では53.7%に対し、就学児童では30.2%と下がり、パート・アルバイトなどが増えています。これは母親がフルタイムで働き続けることの厳しさの表れではないかと思えます。いったん離職すると、フルタイムではあまり働けなくなってしまうということもあると思います。そのような実態の中で、どのくらいの時間預けたらよいか分からないという回答が多くなったのではないのでしょうか。

それでは、次の案件「2 教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」について」を事務局からお願いします。

事務局

(資料2を説明)

泉会長

何かご質問、ご意見はありませんか。

委員

6ページの「4. 地域子育て支援拠点事業」の数値は、どのようなものからきていますか。また、具体的に何を指していますか。

事務局

就学前児童のアンケート調査票の問30で子育て支援事業の現在の利用回数、問31で

利用希望の回数を聞いており、その数値をもとに算出しています。

また、問30で地域子育て支援事業の説明をしていますが、親子が集まって過ごしたり、相談したり、情報提供を受けたりする場で、「地域子育て支援センター(保育所)」「子育て広場」を指しています。

委員 人口推計をみると人口は少なくなっています。ニーズの量も年度が進むにつれて少なくなっていることから、待機児童が年々解消されていくということでしょうか。

委員 人口推計のすべてが減少傾向なのは、少子化の表れだと思います。1つの家族が子どもを3人生まないと人口は現状維持できません。3人目を生めるような吹田市にして欲しいという声をよく聞きます。

委員 資料2の5ページ、0歳児の26年度見込みと27年度見込みを見比べると、27年度は約700人も多くなっています。この差をどうするかということですが、それ以降の見込みが減少していきます。26年度と27年度の差がこれほど大きいのはなぜか疑問です。

事務局 人口推計については、コーホート変化率法で20年度から24年度までの人口と15歳から40歳までの女性の出生数を踏まえ推計しています。これは27年度の子どもの数は15歳から40歳までの人口が今より増えなければ減っていくという単純な計算になっています。

吹田市を魅力のある街にして人口流入を図っていく必要があります。このまま減っていくことを見過ごそうとは思っていません。

子ども・子育て支援に係る予算科目である児童福祉費は、事業の見直しを行っていても減額されていません。人口減少は日本の人口動態としても表れていますが、事業計画を策定するにあたり、これから30年、40年の施設利用を考えていくと、認定こども園のような複合的な施設も検討しなければならないのではないかと思います。ニーズ調査でも利用したいサービスとして、今は本市にない認定こども園を回答している方がいます。全てを認定こども園に変えるということではありませんが、選択肢を増やしていくべきだと考えています。

泉会長 子どもが減っていくのでそれに合わせて事業を縮小していけば良いということにはならないと思います。今の保育基準は、戦後間もない頃の最低基準です。世界から見ると非常に低いものです。世界では子どもたちこそこれからの社会を支えていく大事な宝だということでお金をかけています。子どもを育てる環境が今のままだと厳しい状況になります。そこで新しい時代の子育てのあり方を考えなければならない。国もようやく3歳児の配置基準20人を15人にしようとしています。それでも世界から見ると多いです。スウェーデンでは年長児5人に保育者1人、少なくとも17、18人に3人を配置しています。質の改善をどうするかも考えていかなければならないと思います。

委員 6ページの「2 放課後児童健全育成事業」について、これは6年生までが対象になっていますか。

事務局 6年生までを対象としています。

委員 保育所に0歳児を1,000人以上も入れるとなると、財政的にも人員的にも大きな負担になります。どうして、このような数字になったのですか。

事務局 この数字は、あくまでも希望の数字です。アンケートでは、実際に預けるかどうかは別ものです。調査を行う際に必ず出てくる問題で、「あれば良い」という答えが多くなります。国としては、希望の人数を「量の見込み」としていますが、慎重に考えていかなければならないと思います。

泉会長 それでは、次の案件「3 教育・保育提供区域の設定について」を事務局からお願いしま

す。

事務局  
泉会長  
委員

(資料3を説明)

何かご質問、ご意見はありますか。

吹田市では局地的な開発で急激な人口変動が起こっています。それに伴い子どもの人口が増えたり減ったりして対応に追われていると聞いています。これは吹田の街づくり、開発のあり方ということですが、今後、どのような街づくりを行っていくか、という都市計画などに関わってくるのだと思いますがいかがでしょうか。

事務局

千里ニュータウン、千里丘、千里山周辺の開発が予定されています。先ほど質の問題についてのご指摘がありましたが、現状、量の問題に追われていることを申し訳なく思っています。提供区域の設定については、一定の広い範囲で区分し、順番に対応する必要がありますのではないかと思います。これは、介護保険制度の施設整備計画とほぼ同じやり方です。区域が細かければ細かいほど利便性に優れますが、用地の確保ができず、結局整備が進まない区域もでてくるのが考えられます。開発の件もありますので、提供区域を広めにして、調整できるようにした方が整備を進めるうえでは良いと思います。都市計画は10年、15年の規模で進めていきますが、この計画は5年で整備するものです。

委員

利用者側とすれば、身近な地域にあるということが一番良いことですので、積極的に考えてもらいたいと思います。学童保育に関して、私たちがアンケートを実施し、推計を行いました。今回算出された数値は妥当だと思います。ただし、提供区域の設定や確保方策において、現状、各小学校に留守家庭児童育成室を設置していますが、隣の小学校の留守家庭児童育成室には行けません。個々の小学校で見ると児童数の差があり、今後、6年生までの数字を含めるとより大きな差がでます。何とか確保できる小学校があれば、いっばいで根本的に考え直さなければならぬところが出てくるかもしれません。そういう意味でも小学校区単位で考えていただきたいと思います。

委員

現在の保育所待機児童は、かなり多いと聞いています。これは待ったなしだと思います。何年後かに確保するという話ではありますが、今の「入れない」という数字です。2けたの待機児童くらいなら仕方がないかと思いますが、3けたもあり、育休の延長やもう1年家で世話をする、あきらめる、親の権利の行使もできないなどがあると思います。前回、小規模保育の話がありましたが、親としてはありがたいもので、少しでも預けられるところがあればと思いますが、昨今、認可外保育施設の事故などがニュースになっていることから、そこに支援するのはリスクがあるのでは、と不安になります。あくまでも小規模保育は一時的であって欲しいと思います。今年は認可外施設だったけれども、来年は認可施設へ行ける、ということが担保されれば、待機児童の数でも本当のニーズに対応できると思います。予算は、増えているということですが、保育は子ども全体に対して一部なので、その子どもだけに使うのはどうかと言われたことがあります。また、一人当たりの費用として考えると低くなっていると感じます。待機児童を何とかするために受け皿を広くしてもらいたいと思います。

事務局

待機児童の多さについては、申し訳なく思っています。昨年であれば、待機児童の約半数が認可外保育施設へ入所している状況であり、そこに公費を入れて保育の質を上げてもらうということが現実的な方策だと思います。現在、市内にある認可外保育施設に公的資金をいれて、質の向上を図りながら、保護者の負担を一律35,000円にしようと考えています。本市には、指導、監査権限を持っている部署があり、職員が現場を見て条件を満たすことができる場所に絞って考えています。今回、策定する事業計画については、量的な確

泉会長	<p>保方策をまず考え、あわせて質を上げていきたいと思っています。そうすることにより、吹田市に住みたいと思う若い世代が増えるよう頑張っていきたいと思っています。</p> <p>認可外保育施設については、人員や環境が整っていないところがあります。実態をきちんと見ていく必要があると思います。また、インターネットで簡単に子どもを預けることができるようになっていきます。預けるところがなかったら、親も安易にそういうところに預けてしまいます。吹田の子どもはどのような状況でも健やかに育つような環境を整備していただきたいと思っています。</p>
委員	<p>小学校によって空き教室がいくつもある学校と、教室が足りなくて困る学校があります。提案なのですが、提供区域の設定に合わせて小学校区の設定を変更することも検討してはどうでしょうか。</p>
事務局	<p>小学校区の設定については、教育委員会で行っています。校区についてのご意見があったことは、教育委員会に伝えたいと思います。</p>
委員	<p>量の算出方法が決まっていますが、この計画は地域性が求められると思います。もう少し細かく地域性のある数字を見た方が良いと思います。その中に開発の性格上、推計とのずれもあると思います。もう少し実質面を反映させた数字が必要だと思います。</p>
事務局	<p>審議会の資料については、ホームページで公表はしますが、十分な理解がないと、この数字で進めるということになってしまいます。細かな数字については、慎重に検討したいと思います。区域設定については、整備が進むようできる限り広い区分で設定したいと思います。</p>
泉会長	<p>本市は統計的に「不正常要因」が多いと言われています。局地的な開発があり細かい区域設定をすると、その区域で解決できなくなることが多くなります。広い区域設定をしながらも、具体的な整備をする中ではできる限り配慮していきたいと思っています。</p>
事務局	<p>それでは、次に「4 その他」に移ります。委員提出資料がありますが、参考資料として見ていただければと思います。事務局から何かありますか。</p>
事務局	<p>次回、26年度の第1回審議会の日程については、6月19日(木)に今日と同じ場所、同じ時間帯で開催したいと思います。案件については、「教育・保育、地域子育て支援事業の量の見込みに対応する確保方策について」などを考えています。</p>
泉会長	<p>これにて、本日の審議회를終了します。ありがとうございました。</p>